

仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

仁 淀 川 地 域 本 部

令和3年2月9日（火）

仁淀川地域アクションプランの進捗状況等

R3.2.9

仁淀川地域本部

1 地域アクションプランの令和2年度の実施状況（総括）

(1) 総評

全33のプランについて、実行支援チームを編成、事業推進に向けた協議と進捗管理を実施し、それぞれの地域アクションプランに掲げた目標の達成を目指して取り組みを進めている。

事業のステップアップなどの課題を抱えている案件については、人材育成講座への誘導や各種アドバイザーの派遣、各種補助金の活用等、各案件の状況に応じた支援策を講じ、関係機関と連携した具体的なサポートを実施している。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、仁淀川地域においても、年度当初から様々なイベントの中止や外出・移動の自粛などによる観光産業の落ち込みをはじめ、店舗の一時休業や取引先との取引停止、商談の中止等による経済活動の停滞など、大きなマイナスの影響が見られた。

こうした中、各市町村においても、事業継続に向けた独自の支援策を打ち出すなど、地域経済の維持に向けた取り組みが行われている。

新型コロナウイルス感染症の完全な収束時期は見通せない状況にあるが、「新しい生活様式」に対応したイベントの実施や、商談会への出展、受入態勢の整備など事業主体等による取り組みを行っている。

農業分野では、今年度、産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し、本川手箱きじの食鳥処理施設及び加工施設の改修を行い、衛生管理の強化と生産体制の安定化を図るとともに産業振興アドバイザー（課題解決型）を活用し、戦略的なPRの手法やマーケティング、販路拡大に取り組んでいる。また、トマトの生産拡大では栽培講習会や現地検討会での栽培技術指導、個別巡回による栽培指導の徹底を図ることによって、トマトの出荷量、販売実績額を伸ばしている。また、法人への新規雇用や、JA高知県が運営する無料職業紹介所等により、トマト生産に係る雇用人数は増加しており産地の確立だけではなく、移住促進や雇用拡大など地域の活性化の取り組みとも連携して進めている。

林業分野では、より一層の原木の増産と安定確保を目指して管内市町村及び森林組合との協議を進めるとともに、平成31年4月に施行された森林経営管理法に基づく、新たな森林経営管理体制の円滑な運用に向けた協議を行うなど、地域の関係者とともに林業・木材産業の振興に取り組んでいる。

水産業分野では、企業組合宇佐もん工房が、平成28年度に産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し加工施設の拡張整備を行ったことにより、衛生管理が高度化し、また生産性も向上した。これを基盤に、うるめいわしと他魚種の鮮魚を使った新商品の開発、さらなる販路拡大に取り組んでいる。

商工業分野では、仁淀川町を拠点として新たにクラフトビールの製造・販売を行う MUKAI CRAFT BREWING(株)の醸造設備が完成し、地元食材などを活用したクラフトビールの製造や販売が開始している。また、佐川町において、さらなる交流人口の拡大と地域経済の活性化に向けて新たに道の駅の整備を計画しており、基本計画の策定を経て、現在、基本設計業務に関する取り組みを進

めている。

観光分野では、越知町がアウトドアの拠点施設として整備した「スノーピークおち仁淀川キャンプフィールド」の利用者が令和元年度は1万1千人を超えるなど、県内外から多くのアウトドア愛好家が訪れているが、今後のさらなる利用拡大に向けて、ビジネス用途などキャンプ以外での利活用も訴求する取り組みを進めている。

(2) 具体的な動き

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.2 漢方薬の原料となる薬用作物の作付け拡大と生産性の向上による仁淀川流域産地の振興(仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)</p> <p>《実施主体》</p> <p>・(農)ヒューマンライフ土佐</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) ミシマサイコ栽培面積(仁淀川流域町村分)</p> <p>出発点(R元): 5.7ha</p> <p>到達目標(R2): 3.1ha</p> <p>目標(R5): 7.7ha</p> <p>(2) サンショウ製品量(仁淀川流域町村分)</p> <p>出発点(H30~R元平均): 37.2t</p> <p>到達目標(R2): 40.0t</p> <p>目標(R2~R5平均): 40.0t</p> <p>(3) ダイダイ製品量(仁淀川流域町村分)</p> <p>出発点(R元): 13.6t</p> <p>到達目標(R2): 18.5t</p> <p>目標(R5): 26.6t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) ミシマサイコ栽培面積(R2.12月末): 3.1ha (対前年同期比: 54%)</p> <p>※R元年度での発芽不良等による収益低迷から、栽培を見合わせ生産者が増加した。</p> <p>(2) サンショウ製品量(R2.12月末): 14.8t (対前年同期比: 59%)</p> <p>※さび病、暖冬の影響で着果数が大幅に減少した。</p> <p>(3) ダイダイ製品量(R2.12月末): 16.0t (対前年同期比: 118%)</p> <p>○ミシマサイコ生産の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休作者への作付け呼びかけ(11/26生産者説明会35名)、新規栽培者の勧誘(電話での栽培相談: 5件) ・越知町連絡会での生産拡大に向けた検討(9/24) ・苗立ち本数確保対策実証圃を設置し、休眠打破処理による発芽率向上について調査(4/16~6/30、4カ所)。結果を次年度の種子管理に反映 ・炭そ病防除薬剤実証圃設置(5/6~10/23、1カ所)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・病害対策にかかる栽培資料を生産者に配付 (6/18、9部) ・栽培履歴の分析を基に栽培の留意点(播種、施肥、摘芯等)を指導(11/26生産者説明会35名) <p>○サンショウの生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・害虫(アザミウマ類)対策資料を(農)ヒューマンライフ土佐に送付(4~9月6回実施) ・部門別生産者会で土壌管理・病害虫対策資料を生産者に配付(7/6、100部) ・園地状況調査により、樹体の状況を確認 (5/12~、14カ所) ・収穫作業者として大学生の活用検討(4回) ・更新用苗木生産体制の整備 ・土壌分析を実施し、結果と改善策を生産者に送付 (4/24~12/11、90点、改善策送付25戸) ・冬期防除についての資料を生産者に配布 (1/18、100部) ・剪定講習会の実施(1/29) <p>○ダイダイの生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・剪定講習会実施、病害虫防除資料配付(2/24予定) <p>○(農)ヒューマンライフ土佐の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会を開催し薬用作物の普及方針を共有(6/18) ・サンショウ・ダイダイ部門別生産者会の開催(7/6) ・ダイダイ(橙皮)出荷説明会の開催(1/18、40名) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシマサイコの発芽不良対策と作付け拡大 ⇒実証結果をもとに必要苗立ち数が確保できる播種法を整理し、生産者への周知を図るとともに、休作者を中心に作付け再開を呼びかける ・サンショウの適正な栽培技術の定着 ⇒収穫後の防除徹底を啓発するとともに、土壌分析を元にした施肥指導や適正な剪定技術の普及を図る ・ダイダイの管理しやすい整枝方法の確立 ⇒剪定モデル圃場の結果を剪定講習会にフィードバックし、優良な樹形づくりへの誘導を図る
<p>■No.3 日高村まるごとブランド化(日高村)</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 農産物等の販売額 出発点(H30):5.4億円 到達目標(R2):5.63億円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎・日高村 ◎・JA 高知県(仁淀川地区) <ul style="list-style-type: none"> ・JA 高知県日高支所ハウス園芸部会 ・(株)コスモスアグリサポート ・(株)イチネン高知日高村農園 ・日高村商工会 ・(特非)日高わのわ会 ・農事組合法人霧山茶業組合 ・(株)村の駅ひだか <p>※地域産業クラスター関連(日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト)</p>	<p>目標 (R5) : 5.86 億円</p> <p>(2) 「オムライス街道」によるオムライス販売数</p> <p>出発点 (R 元見込み) : 55,475 食</p> <p>直近値 (R 元) : 56,825 食</p> <p>到達目標 (R2) : 57,000 食</p> <p>目標 (R5) : 60,000 食</p> <p>(3) 商品・加工品開発件数</p> <p>出発点 (H28～H30 累計) : 23 件</p> <p>直近値 (R 元) : 5 件</p> <p>到達目標 (R2) : 6 件</p> <p>目標 (R2～R5 累計) : 25 件</p> <p>(4) 村外からの移住者数</p> <p>出発点 (H28～H30 累計) : 12 組</p> <p>到達目標 (R2) : 5 組</p> <p>目標 (R2～R5 累計) : 20 組</p> <p>(5) 新規就農者数</p> <p>出発点 (H28～H30 累計) : 19 名</p> <p>直近値 (R 元) : 2 名</p> <p>到達目標 (R2) : 1 名</p> <p>目標 (R2～R5 累計) : 4 名</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 農産物等の販売額 (R2.11 月末) : 4.25 億円 (うちトマト販売額 (R2.11 月末) : 3.76 億円)</p> <p>(2) 「オムライス街道」によるオムライス販売数 (R2.11 月末) : 32,691 食 (対前年同期比 : 82%)</p> <p>(3) 商品・加工品開発件数 (R2.12 月末) : 4 件</p> <p>(4) 村外からの移住者数 (R2.12 月末) : 6 組</p> <p>(5) 新規就農者数 (R2.12 月末) : 2 名 ・移住相談数 (R2.12 月末) : 延べ 90 件</p> <p>○クラスタープラン : 日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクトの取り組み推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培講習会及び現地での検討会 (R2.12 月末) : 10 回 ・個別巡回による栽培指導 (R2.12 月末) : 126 回 ・就農希望者との面談 (R2.12 月末) : 2 回 ・産地提案書の見直し (R2.12 月末) : 5 回 ・法人雇用実態調査 (R2.12 月末) : 3 回 ・JA 高知県が運営する無料職業紹介所の活用に向けた協議 (R2.12 月末) : 3 回

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・経営実態調査 (R2. 12 月末) : 22 回 ・農家への経営コンサルティング (R2. 12 月末) : 22 回 ・経営目標調査 (R2. 12 月末) : 22 回 ・県版 GAP 点検 (R2. 12 月末) : 3 回 ・(株)イチネン高知日高村農園が生産するミニトマトの輸出に向けた検討会議 (R2. 12 月末) : 1 回 ・夏秋トマトの販売会議 (R2. 12 月末) : 2 回 ・ミニトマトの販売会議 (R2. 12 月末) : 3 回 ・大玉トマトの販売会議 (R2. 12 月末) : 2 回 ・市場に対するアンケート調査 (R2. 12 月末) : 1 回 ・産業振興アドバイザー (課題一貫支援型) を活用した (特非) 日高わのわ会の経営支援に関する協議 : 5 回 ・オムライス街道スタンプラリー第 7 弾キックオフイベントを実施 (6/12) ・オムライス街道スタンプラリー第 7 弾スタート (6/12~R3. 3. 28) ・オムライス街道事業参加店舗による新メニューの開発 : 3 件 ・新たな加工品の販売 : 1 件 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営管理能力及び生産力の向上 ⇒要望に応じて栽培講習会や栽培指導等を行う ・農業経営体の確保・育成 ⇒研修期間に使用する作業チェックリストの見直し ⇒就農支援体制強化に向けた協議会の開催 ⇒労働力確保に向けたアンケート調査の実施を検討 ・販売力の向上 ⇒定期的に関係者による協議を実施 ⇒JA、園芸連等との予約相対期間等の再検討 ・日高村アグリネットワークの連携強化 ⇒日高村アグリネットワーク会議の開催 ・日高村及び日高村農産物の知名度の向上 ⇒販促活動や日高まるごとイタリアンプロジェクトの推進により日高村の知名度やブランド力の向上とイメージアップを図る ・新たな特産品やトマトを活かした加工品の開発 ⇒クラスタープランの推進による新たな商品や加工品の開発 ・(特非) 日高わのわ会の経営力強化

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.5 本川手箱きじの販路拡大 (いの町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・本川手箱きじ生産企業組合</p> <p>・いの町</p>	<p>⇒運営体制の強化及び収益向上の仕組みづくり</p> <p>[指標]</p> <p>きじ販売額</p> <p>出発点 (H30) : 1,419 万円</p> <p>直近値 (R 元) : 1,486 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 1,920 万円</p> <p>目標 (R5) : 2,951 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>きじ販売額 (R2.12 月末) : 1,044 万円 (対前年同期比 : 104.8%)</p> <p>○営業力の強化による販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザー (課題解決型) を活用し、戦略的な PR の手法やマーケティング、販路拡大について協議を実施 (全 4 回) ・組合の FB とインスタを立ち上げによる情報発信・PR の実施 (6 月～) ・白いきじのネーミング募集 (8 月)、決定(9 月) (全国から 361 件 (274 名) の応募) ・きじの卵の一般販売を開始 (5～6 月末) ・認知度向上のための話題提供 (プレスリリース) 5 回 ・いの町内のきじ取扱店舗でのスタンプラリー開催 (12/1～1/31) <p>○安定した生産体制の確保</p> <p>○産業振興推進総合事業費補助金 (一般事業) を活用した衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設改修の行程会議を実施 (6/15) ・きじ加工処理施設の完成 (供用開始 12/14) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利益率の高い一般消費者向け商品の販売促進 ⇒新商品の開発及び効果的なプレスリリースの実施による本川手箱きじの PR ⇒他地域 (梶原町、愛媛県鬼北町) と連携した「きじの日」の制定によるきじの認知度向上 ・衛生管理体制の確立 ⇒県版 HACCP 第 3 ステージ認証取得

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.7 仁淀川流域における林業・木材産業の振興(仁淀川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <p>◎・林業事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林組合 ・素材生産業者 ・製材業者 ・自伐林家等 	<p>[指標]</p> <p>(1) 原木生産量</p> <p>出発点(H30): 9.8万m³</p> <p>直近値(R元): 9.7万m³</p> <p>到達目標(R2): 10.5万m³</p> <p>目標(R5): 12.0万m³</p> <p>(2) 仁淀川林産協同組合集材センター集荷量</p> <p>出発点(H30): 3.5万m³</p> <p>直近値(R元): 3.8万m³</p> <p>到達目標(R2): 4.0万m³</p> <p>目標(R5): 5.8万m³</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 原木生産量(R2.12月末): 6.2万m³ (対前年同期比: 88%)</p> <p>(2) 仁淀川林産協同組合集材センター集荷量 (R2.12月末): 2.8万m³ (対前年同期比: 92%)</p> <p>○施業地の集約化及び原木生産の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画の変更指導(いの町1事業者: 4月、7月、土佐市1事業者: 6月) ・市町村・事業者等林業関係担当者会(新型コロナ対策により中止 5/15~20で資料配付) ・新たな森林管理システム推進チーム会(6/3、10/30) ・新たな森林管理システム6市町村個別ヒアリング (6/15~19、10/9~15) ・新たな森林管理システム市町村支援 (日高村地区説明会: 6/17、19 森林調査: 7/1、8/25、10/16 事業者協議: 7/7、仁淀川町地区説明会: 10/27) ・新たな森林管理システム事務所WG(6/26、11/6) ・市町村林務担当者向け研修会(8/4、11/27) ・森林経営管理制度研修会(林野庁: 7/8、9/28~30) ・森の工場12事業者個別ヒアリング(6/22、7/17、9/16) ・仁淀川町林業総合戦略策定打ち合わせ(5/15、27、7/14、21、8/6) ・仁淀川町モデル事業打ち合わせ(5/19、7/16、11/13、12/24) ・中央西地区路網整備促進会議(新型コロナウイルス対策により中止 書面による報告6/23)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・仁淀川町池川地区路網 WG 6/22) ・管内森林組合の施業集約化への取り組み・情報提供 (高知中央森組 6/24、7/16 仁淀川森組 7/14 須崎地区森組 7/22、11/12) ・仁淀川町林業総合戦略策定委員会(第1回)(10/20) <p>○林業事業体、人材の育成等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁淀川林産協同組合労働安全衛生指導(仁淀川町2名、5事業体6名 4月) ・高知中央森林組合 労働安全衛生講習会(11/5:30名) ・仁淀川町林業研修生中間報告会(11/20:5名) ・仁淀川町及び高知県立林業大学校との研修制度についての協議(12/21) <p>○仁淀川林産協同組合集材センター集荷量調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川集材センター取扱量 調査(5/19、7/6、10/2) ・大型製材工場の進捗管理及び指導(5/27、7/16、9/23、10/15、12/9) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な森林資源情報を活用した施業提案ソフトの構築と増産に向けたさらなる施業地の確保 ⇒市町村との連携による森林情報の収集・提供、路網整備の促進 ・森林組合の経営改善 ⇒関係各課と林業事務所で構成される支援チームによる経営及び技術指導の実施 ・仁淀川町における森林管理及び川上・川下の木材需給調整を担うシステム及び組織(仮称：林業振興センター)の構築と人材の確保 ⇒・仁淀川森林管理推進協議会及び高吾北地域原木安定供給協議会との連携 ・林業成長産業化地域創出モデル事業の活用による組織づくり及び人材育成 ・仁淀川町の林業総合戦略の策定に向けた協議 ⇒ボトルネックの洗い出しによる課題・問題点等の抽出 ・新たな森林管理システムに向けた市町村の取り組みに対する支援 ⇒林業事務所ワーキンググループ会及び個別訪問による市町村への説明及び意見等の聴取

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.9 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト (佐川町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・佐川町</p> <p>◎・自伐型林業やものづくりに取り組む個人・団体</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 林業関連新規就業者数 出発点 (H28～R 元累計) : 17 人 到達目標 (R2) : 5 人 目標 (R2～R5 累計) : 20 人</p> <p>(2) 山林の集約化面積 出発点 (H28～H30 累計) : 225ha 直近値 (H28～R 元累計) : 491ha 到達目標 (R2) : 100ha 目標 (R2～R5 累計) : 400ha</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 林業関連新規就業者数 (R2. 12 月末) : 5 人 (対前年同期比 : 100%)</p> <p>(2) 山林の集約化面積 (R2. 12 月末) : 39ha (管理契約) (対前年同期比 : 22%)</p> <p>※集約化に向けたアンケート送付地区の対象面積の年度毎の違いによる進捗の変化。</p> <p>○自伐型林業の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊 (自伐型林業) 採用 : 5 人 ・町民向け研修・体験会の開催 チェーンソー研修 (7/18～7/19、10/3～10/4) 間伐体験 (7/23、10/10) 親子で木こり体験&木のイス作り (8/8) ・森林資源フル活用センター 施設整備への産振補助金活用に向けた協議 (11 月) <p>○さかわ発明ラボを核としたものづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊採用 : 2 人 (ものづくり関連) ・佐川町産木材を活用した商品開発の推進 地域おこし協力隊 OB への委託による商品開発 (ウッドスピーカー等) ・さかわ発明ラボ 小中学生対象「放課後発明クラブ」の開催 (毎週水・木曜日) 小学生対象授業「さかわロボット動物園」の支援 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山林の集約化 ⇒土地所有者へのアンケート調査結果をもとに、佐川町

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>森林長期施業管理契約締結の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自伐型林業のビジネスモデルづくり ⇒地域おこし協力隊の採用・育成と自立化、自伐型林業者による組織設立に向けた検討、低質材の活用促進に向けた森林資源フル活用センターの整備等 ・さかわ発明ラボの運営体制の確立 ⇒運営体制構築の検討、法人設立に向けた検討
<p>■No. 10 宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化（土佐市）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業組合宇佐もん工房 <p>※地域産業クラスター関連（宇佐・浦ノ内地区水産資源活用クラスタープロジェクト）</p>	<p>[指標]</p> <p>販売額</p> <p>出発点（H30）：9,084万円</p> <p>直近値（R元）：1億856万円</p> <p>到達目標（R2）：1億2,000万円</p> <p>目標（R5）：1億5,000万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>販売額（R2.12月末）：9,841万円 (対前年同期比：129.1%)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるインターネット販売額の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージキャラクター「うるめもん」を活用した「うるめマップ（土佐市内のうるめ料理提供飲食店13店舗の紹介）」の配布 ・ギフト用詰合せ商品の販売（酒類とのセット商品等） ・インターネット販売等による強化 (新型コロナウイルスの影響により店舗売上は減少したがネット販売の売上は増加) ・他魚種を加工した商品の販売（サバ・タイ・ブリ・カンパチの漬け丼の素） ・漬け丼シリーズの新商品開発中（カツオのたたき漬け丼の素） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料の安定確保 ⇒漁協や漁師との連携による原材料の調達力強化 ・販路拡大及び販売促進 ⇒R2年度中の県版HACCP第2ステージ認証取得（2月予定） ⇒観光協会や地域おこし協力隊と連携したスタンプラリー等によるうるめの周知活動

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・ うるめ不漁時の加工場の稼働率向上 ⇒他魚種の一次加工処理及び新商品開発による売上確保 ⇒漬け丼シリーズのパッケージ改良による作業簡略化と生産性の向上 ・ 中元、歳暮等のギフト需要の取り込みや自家用商品の強化 ⇒自社のショッピングサイト改修によるインターネット販売の強化(補助事業申請中)
<p>■No. 14 いの町中心市街地の活性化(いの町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・いの町</p> <p>◎・いの町商工会</p> <p>※地域産業クラスター関連(いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>中心市街地での事業所の新規開業</p> <p>出発点(H28～R元累計): 15事業所</p> <p>到達目標(R2): 2事業所</p> <p>目標(R5): 8事業所(R2～R5累計)</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>中心市街地での事業所の新規開業(R2～R5累計) (R2.12月末): 3事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土佐和紙を使用した新たな加工品(バッグ)製品化に向けた協議(5/21、6/5) ・ 機械すき会社等との協議(5/26、6/9、6/16、6/25、7/16) ・ 廃紙を使った紙の商品化に向けた調査・研究(7月～) ・ 商店街の新規事業者等を紹介するリーフレット作成にかかる協議(4/17、7/14)、紹介記事のウェブページ制作にかかる協議(9/7)、ウェブページ公開(10/1～) ・ 商店街事業者による高知県産品を使ったクラフトコーラ開発(6/1～第1弾販売開始、10/12～第2弾販売開始) <p>○地域産業クラスターの取り組み(いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芽生姜の酢漬け2種の商品開発に向けた協議 ・ パッケージデザイン(11～1月) ・ 試作及び味の確定(甘酢のみ)(7～9月) ・ 栄養成分検査実施(11月) ・ 賞味期限の確定(1月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地活性化計画に基づく振興策の実施に向けた商店街事業者や住民を巻き込んだ体制づくり ⇒WGの開催、各取り組みの実行に向けた関係者協議

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の継続に向けたデリバリー等新規事業や販路拡大の取り組み ⇒持続化補助金など支援策の案内 ⇒商工会・行政が連携した相談体制の構築
<p>■No. 16 仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化（仁淀川町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・MUKAI CRAFT BREWING(株)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁淀川町 	<p>[指標]</p> <p>クラフトビール販売額</p> <p>出発点 (R 元) : -</p> <p>到達目標 (R2) : 700 万円</p> <p>目標 (R5) : 1, 300 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>クラフトビール販売額 (R2. 12 月末) : 300 万円</p> <p>○生産体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンク等醸造設備の輸入手続き、加工施設への搬入作業 (4~5 月) ・醸造設備の稼働に向けた準備 (5 月~) ・酒類製造免許 (税務署) 及び酒類製造業・飲食店営業 (保健所) の営業許可を取得 (6/23) ・醸造設備の完成 (9 月) ・クラフトビールの醸造開始 (9/20) ・ムカイクラフトブルーイング (醸造設備) と併設された飲食スペース「BLUE BREW (ブルーブルー)」のオープン (11/1) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・醸造設備の円滑な稼働と安定生産 ⇒安定した味・レシピの調整、醸造の軌道化 ・品質管理と衛生管理の徹底 ⇒県版 HACCP 第 3 ステージの認証取得 ・集客促進と受入体制の強化 ⇒案内看板の設置や屋外飲食スペースの充実 ・ブランド化の確立、販売促進 ⇒販売戦略の見直し、アドバイザー活用も含めた検討 ・地域との連携強化 ⇒地域資源である副原料の提供、地域での試験的なホップ栽培、宿泊施設との連携を検討
<p>■No. 20 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト (佐川町)</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 年間売上高</p> <p>出発点 : -</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>《実施主体》</p> <p>◎・佐川町</p> <p>・(仮)道の駅運営主体</p> <p>※地域産業クラスター関連(佐川町木材産業クラスタープロジェクト)</p>	<p>目標 (R5) : -</p> <p>(2) 来場者数</p> <p>出発点 : -</p> <p>目標 (R5) : -</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>○道の駅施設の整備、体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町道の駅基本計画策定委員会の開催 (6/1、8/3) ・基本計画の策定 (8月) ・基本設計プロポーザルの実施 (11/24) ・基本設計の実施 (12月～3月末予定) ・「まきのさんの道の駅・佐川」町民向け説明会・ワークショップの開催 (1/24) <p>○佐川町の特産品の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発WSの実施 : 5回 (7～8月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅施設の整備、体制強化 ⇒施設整備に向けた基本設計の実施、運営組織の設立検討等 ・佐川町の特産品等の充実強化 ⇒商品開発WSを踏まえた地域産品の磨き上げ及び開発
<p>■No. 21 「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>◎・(株)村の駅ひだか</p> <p>・日高村</p> <p>※地域産業クラスター関連(日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 直販市の販売額</p> <p>出発点 (R元見込み) : 2.11億円</p> <p>直近値 (R元) : 2.12億円</p> <p>到達目標 (R2) : 2.12億円</p> <p>目標 (R5) : 2.15億円</p> <p>(2) レジ通過人数</p> <p>出発点 (R元見込み) : 19万1千人</p> <p>直近値 (R元) : 19万2千人</p> <p>到達目標 (R2) : 19万1千人</p> <p>目標 (R5) : 19万4千人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 直販市の販売額 (R2.12月末) : 1.58億円 (対前年同期比 : 100%)</p> <p>(2) レジ通過人数 (R2.12月末) : 13万6千人 (対前年同期比 : 93.7%)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・H26.11月オープン以降の来客者数(レジ通過)が110万人突破(R2.5月) ・村の駅ひだか出荷部会の開催(R2.12月末):4回 ・村の駅ひだか取締役会の開催(R2.12月末):2回 ・店頭販売の実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販市の機能強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒商品の集荷体制の確立 ⇒特産品生産者の高齢化に伴う後継者づくり ⇒他地域の特産品も含めた販売商品の拡充
<p>■No.22 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進(仁淀川地域全域)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(一社)仁淀ブルー観光協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市 ・いの町 ・仁淀川町 ・佐川町 ・越知町 ・日高村 ・(一社)土佐市観光協会 ・(一社)いの町観光協会 ・仁淀川町観光協会 ・(一社)さかわ観光協会 ・越知町観光協会 ・日高村観光協会 	<p>[指標]</p> <p>(1) 仁淀ブルー観光協議会関連のツアー送客数</p> <p>出発点(H30):6,671人 直近値(R元):8,014人 到達目標(R2):- 目標(R5):7,300人</p> <p>(2) 主要宿泊施設の宿泊者数</p> <p>出発点(H30):62,232人 直近値(R元):62,412人 到達目標(R2):- 目標(R5):72,000人</p> <p>(3) 主要観光施設等の入込客数</p> <p>出発点(H30):252,397人 直近値(R元):281,991人 到達目標(R2):- 目標(R5):276,000人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 仁淀ブルー観光協議会関連のツアー送客数 (R2.12月末):1,936人(対前年同期比:24.2%) ※新型コロナウイルスの感染拡大に伴うツアーの催行中止等により、前年より減少している。</p> <p>(2) 主要宿泊施設の宿泊者数(R2.12月末速報値): 28,600人(対前年同期比:59.0%) ※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、前年より減少している。</p> <p>(3) 主要観光施設等の入込客数(R2.12月末速報値): 140,321人(対前年同期比:62.1%) ※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、前年</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>より減少している。</p> <p>○商品造成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツ造成事業への参画による体験型コンテンツ等の磨き上げ (モニターツアー 8/31~9/1、10/21~10/23) ・誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成実証事業を通じた体験事業の磨き上げの取り組み ・仁淀ブルーアドバイザーを活用した商品造成支援 <p>○広報・誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、SNS 等による情報発信 ・仁淀ブルー通信配信数 (12 月末) : 19 本 ・仁淀エリアの PR 動画の作成及び HP での配信 ・(一社)仁淀ブルー観光協議会のシンボルマークの発表 (6/29) ・仁淀川エリア内の周遊促進を目的としたロケットカードの配布 (7/3~) <p>○受入・おもてなし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐の観光創生塾「観光商品造成コース」の紹介受講生による商品造成販売数 : 9 件 ・地域の頑張る人づくり事業費補助金を活用した流域 6 市町村における新たな観光コンテンツ創出支援 <p>○組織体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁淀ブルーDMO ワーキングの開催 (7/2、10/15、12/14) ・(一社)仁淀ブルー観光協議会理事会の開催 (5/27、11/26) ・(一社)仁淀ブルー観光協議会社員総会の開催 (6/24、12/24) ・管内 6 市町村担当課長会の開催 (4/21、5/27、7/10、10/1、11/11) ・観光地域づくり塾を通じた滞在型観光プランの作成 集合研修 : 7/21、8/7、8/17、8/18 分科会 : 9/9、10/8、11/17、12/17 ・高知県観光地域づくり体制強化事業委託業務 (県版地域おこし協力隊) による高知県観光地域づくり推進員の配置 (1/1~) ・仁淀ブルー体験博 (仮称) の実施に向けた検討会の開催 (1/28)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会関係者（事務局、市町村、観光協会等、県）のパートナーシップの強化 ⇒理事会や観光担当者会で仁淀ブルーDMO 観光戦略の方向性の確認や実践に向けた協議を実施 ⇒仁淀ブルーDMO 観光戦略実行ワーキンググループを通じた官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図る仕組みの構築及び戦略推進のPDCA サイクルの実施 ・仁淀川地域の観光施設、宿泊施設、食事施設等の事業者を巻き込んだ協議会パートナーとしての連携意識醸成及び自主財源の確保 ⇒新型コロナウイルス収束後を見据え、国及び県の施策と連携した観光客誘致につながる事業の実施 ⇒仁淀川地域観光に携わる人材の育成 ⇒市町村、観光協会と連携して仁淀川地域の観光施設、宿泊施設、食事施設等の事業者を訪問し、協議会活動への賛同者の獲得及び賛助会費の確保 ⇒宿泊施設と連携・協働したプログラム開発 ⇒仁淀川地域のお土産品や特産品の開発・販売
<p>■No. 23 土佐市における体験型観光と食観光の推進（土佐市）</p> <p>《事業主体》</p> <p>◎・(一社)土佐市観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市 ・宇佐ホエールウォッチング協会 ・土佐市ドラゴンガイドチーム <p>※地域産業クラスター関連(宇佐・浦ノ内地区水産資源活用クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>体験型・食観光における入込客数</p> <p>出発点 (H30) : 2,143 人</p> <p>直近値 (R 元) : 3,382 人</p> <p>到達目標 (R2) : 4,000 人</p> <p>目標 (R5) : 5,000 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>体験型・食観光におけるの入込客数</p> <p>(R2. 12 月末) : 1,549 人 (対前年同期比:46.5%)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大の影響による減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホエールウォッチング協会の SNS による運行・遭遇状況の情報発信 ・SNS による効果的な情報発信強化のため SNS 活用勉強会を実施 (9/25) ・地域の頑張る人づくり事業費補助金を活用した SNS 情報発信セミナーの実施 (10/21、11/18、12/9) ・旅行会社による視察受け入れ (8/24、9/17) ・産業振興アドバイザー (課題解決型) を活用し、観光ガイドチームのスキルアップ及びまちあるきコースの磨き

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>上げ研修を実施(4回:9/27、10/31、11/21、12/19)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホエールウォッチングのさらなる誘客に向けた態勢整備 ⇒荒天時の代替メニューの検討 ・冬季観光メニューの開発 ⇒地域おこし協力隊(観光担当)の企画する文旦収穫体験を新たな体験メニューとして開発 ・まちあるきコースのガイド台本・マップの作成 ・新型コロナウイルス感染症の影響による入込客数の大幅減少 ⇒感染症対策に配慮した安心安全な受入れの継続と新型コロナウイルス収束後を見据えた誘客施策の検討と実施
<p>■No. 26 いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進(いの町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(一社)いの町観光協会</p> <p>・いの町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1)体験参加人数 出発点(H30):27,541人 直近値(R元):28,428人 到達目標(R2):26,600人 目標(R5):30,100人</p> <p>(2)体験メニュー売上高 出発点(H30):5,175万円 直近値(R元):5,669万円 到達目標(R2):5,080万円 目標(R5):5,931万円</p> <p>(3)主要観光施設入込客数 出発点(H30):374,801人 直近値(R元):379,742人 到達目標(R2):397,400人 目標(R5):415,800人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1)体験参加人数(R2.12月末):12,360人 (対前年同期比:48.3%)</p> <p>(2)体験メニュー売上高(R2.12月末):3,046万円 (対前年同期比:55.4%)</p> <p>(3)主要観光施設入込客数(R2.12月末):211,972人(対前年同期比:69.4%)</p> <p>※いずれも新型コロナウイルス感染症拡大の影響による減少</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・にこにこ館リニューアルに伴うウェブページ改修に向けた協議 (6/2) ・観光協会による地域産品の通信販売開始 (6月～) ・にこにこ館リニューアル後における飲食ブースでの飲食メニュー・オペレーション・経営に関する勉強会 (6/5、6/23、7/27、8/11、10/5) ・にこにこ館リニューアルグランドオープン (10/19) ・グリーンパークほだので新たな体験メニューの受入開始 <ul style="list-style-type: none"> ・石釜で作る！焼きドーナツ作り体験 (6/23～) ・手ぶらでバーベキュープラン (10/27～) ・銀橋マルシェ 2020 開催 (8/2、8/9、8/16、8/23、8/30)：来場者約 2,000 人 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて楽しめる体験メニューづくり ・体験メニュー利用者動向の分析及び対応策の検討 ⇒利用者のニーズに合わせた体験メニュー構築 ・まちあるきガイドの育成・強化 ⇒既存ガイドの研修会開催、他地域への視察及び勉強会実施 ・新型コロナウイルス感染症の影響による入込客数の減少 ⇒社会構造の変化に対応したイベント等の検討及び実施
<p>■No. 28 仁淀川町での観光情報の発信強化と受入体制の充実 (仁淀川町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・仁淀川町観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁淀川町 ・仁淀川町内の地域づくり団体 	<p>[指標]</p> <p>主要観光施設等入込数 (施設：ゆの森、しもなの郷、宝来荘、秋葉の宿) (観光資源：中津溪谷、安居溪谷、桜及び花桃、秋葉まつり)</p> <p>出発点 (H30)：76,000 人 直近値 (R元)：85,098 人 到達目標 (R2)：76,400 人 目標 (R5)：77,000 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>主要観光施設等入込数 (R2.12月末)：51,432 人 (対前年同期比：74%)</p> <p>※新型コロナウイルスの感染拡大の影響による観光客の減</p> <p>○観光人材の育成等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイド養成講座の実施に向けた関係者協議 <p style="text-align: right;">(6/18)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>→新型コロナウイルスの影響を考慮し、溪谷ガイドの動画を撮影して受講者へ配布、動画視聴後は、個別に質疑対応や現地でのガイド実践などフォローアップを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安居、中津溪谷のガイド向け動画撮影 (7月末～8月末) ・観光ガイド養成講座(通信講座形式)の受講生募集 (8～12月)(12名が受講) ・受講生へDVDと資料の配付(9/14～) ・現役ガイドによる溪谷のガイド指導(10月～) (12月末時点で9名が実施) <p>○関係者による町内イベントの共有、観光施策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会として観光報告会を開催(月1回) ・町内事業者に対して、観光資源の素材収集のためのアンケート調査を実施(8～11月末) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要観光スポットにおける受入態勢の充実による県外観光客の誘致 ⇒観光ガイド養成講座による新人ガイドの発掘及び既存ガイドのスキル向上 ⇒案内看板やパンフレットのリニューアル、多言語化への対応 ・町内観光施設への周遊促進 ⇒既存体験メニューの磨き上げ、新たな体験メニューの造成
<p>■No. 29 佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進(佐川町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎・佐川町 ◎・(一社)さかわ観光協会 ◎・佐川町内の地域づくり団体・個人 	<p>[指標]</p> <p>(1) 上町地区への入込客数</p> <p>出発点(H30): 31,225人 直近値(R元): 30,091人 到達目標(R2): 32,000人 目標(R5): 40,000人</p> <p>(2) 上町まち歩きガイド利用者数</p> <p>出発点(H30): 4,512人 直近値(R元): 4,816人 到達目標(R2): 5,100人 目標(R5): 5,500人</p> <p>(3) 青山文庫の入館者数</p> <p>出発点(R元見込み): 5,559人 直近値(R元): 4,974人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>到達目標 (R2) : 6,000 人 目標 (R4) : 6,000 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 上町地区への入込客数 (R2. 12 月末) : 11,811 人 (対前年同期比 : 49.2%) ※新型コロナウイルスの影響による、(一社)さかわ観光協会臨時休業 (4/21~5/11) 及び観光客の減のため、前年より減少している</p> <p>(2) 上町まち歩きガイド利用者数 (R2. 12 月末) : 635 人 (対前年同期比 : 15.0%) ※新型コロナウイルスの影響による、受付停止 (4 月中旬~7/31) 及び利用者の減のため、前年より減少している</p> <p>(3) 青山文庫の入館者数 (R2. 12 月末) : 2,350 人 (対前年同期比 : 55.5%) ※新型コロナウイルスの影響による、臨時休館 (4/11~5/10) 及び入館者の減のため、前年より減少している</p> <p>○誘客促進に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JR 客車の展示等を行う収容施設の整備 (R2. 9~R3. 3 月(予定)) ・ さかわ観光協会 JR 観光列車「時代の夜明けの物語」へのおもてなし対応 「わんさかわっしょい体験博 2020」の開催 (R3. 1/16~2/28 予定) ・ 青山文庫企画展の開催 春の企画展「志士たちの遺墨」小展示「西谷文庫の世界」 (3/14~9/6) 特別展「志士最後の生き証人・田中光顕」(9/12~12/13) 冬の企画展「志士たちの遺墨」(12/19~3/7) ・ 佐川くろがねの会 まち歩きガイドコースの新設 (牧野富太郎コース等) 英語自主研修 (毎週) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さらなる誘客に向けたおもてなしの態勢づくり ⇒青山文庫をはじめとした歴史資源の活用及び周遊コースの仕掛け、新たな観光施設の整備等によるクラスターの

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>さらなる推進 ⇒体験型博覧会に向けて地域資源の掘り起こし、磨き上げ、商品化を進め着地型観光の受入体制を構築</p>
<p>■No. 31 越知町における体験型観光の拠点となるキャンプ場を核とした交流人口の拡大と地域の活性化（越知町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・越知町</p> <p>・(株)スノーピーク</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) キャンプ場利用者数 出発点 (H30) : 9,526 人 直近値 (R 元) : 11,113 人 到達目標 (R2) : 10,920 人 目標 (R5) : 10,980 人</p> <p>(2) 宮の前公園センターハウス レジ通過者数 出発点 (R 元見込み) : 23,000 人 直近値 (R 元) : 18,573 人 到達目標 (R2) : 29,400 人 目標 (R5) : 34,000 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) キャンプ場利用者数 (R2. 12 月末) : 7,224 人 (対前年同期比 : 73.1%) ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、前年より減少している。</p> <p>(2) 宮の前公園センターハウス レジ通過者数 (R2. 12 月末) : 14,180 人 (対前年同期比 : 89.7% (前年は 6/8~))</p> <p>○キャンプ場の稼働率向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業研修等での利用に向けたニーズ調査を実施 <p>○宮の前公園センターハウスへの誘客</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗前屋外スペースにて、県内事業者が出店するテイクアウトマーケットを 4 回実施 (7/23~25、8/15. 16、9/19. 20、10/11. 17. 18) ・「さんしん GO!」による取り組み紹介 (8/9 放送) ・経営改善に向けた産業振興アドバイザー (課題解決型) の活用 (11/26) <p>○アウトドアイベントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮の前公園を会場に「第 2 回 おち・まち・そとあそび」を実施 (11/14. 15) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場へのさらなる誘客と経済効果の波及 ⇒企業への個別訪問を実施し、ニーズに応じたキャンプ

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>場利用を提案</p> <p>⇒町内事業者や商工会など関係団体との連携支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮の前公園センターハウスへのさらなる誘客 <p>⇒特産品等に係る情報収集の継続、取扱商品の充実化</p> <p>⇒店舗前屋外スペースを活用し、県内事業者に出店してもらうことにより賑わいを創出し、入店を促進</p>
<p>■No. 32 日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進（日高村）</p> <p>《事業主体》</p> <p>◎・日高村観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> 日高村 	<p>[指標]</p> <p>(1) 体験参加人数</p> <p> 出発点 (H30) : 1,370 人</p> <p> 到達目標 (R2) : 2,200 人</p> <p> 目標 (R5) : 2,500 人</p> <p>(2) 小村神社周辺イベント来場者数</p> <p> 出発点 (R 元) : 2,168 人</p> <p> 直近値 (R 元) : 2,168 人</p> <p> 到達目標 (R2) : 2,200 人</p> <p> 目標 (R5) : 2,500 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 体験参加人数 (R2. 12 月末) : 2,186 人</p> <p>(2) 小村神社周辺イベント来場者数</p> <p> (R2. 12 月末) : 1,956 人 (対前年同期比 : 90.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験プログラム造成 (R2. 12 月末) : 2 件 日高村観光協会が YouTube での情報発信を開始 (5 月～) 高知県内在住の方を対象に、村内の体験観光プログラムを通常料金の半額で提供する取り組み「来て・見て・体験して！日高村体験半額キャンペーン」を実施 (6～8 月) 農事組合法人霧山茶業組合での新たな体験観光メニュー創出に向けた協議を実施 インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト日下川新規放水路第 1 回現地協議会の開催 (12/2) 日高村内の各イベントを一括し「ドライブイン日高村 2020 秋」とした PR を実施 (11 月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報発信及び村内事業者間での連携の強化 ⇒日高村観光協会によるホームページや SNS 等を活用した情報発信 小村神社及び国宝の認知度向上に向けた取り組み ⇒小村神社の観光資源としての活用の検討

2 令和2年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取り組み	事業概要	総事業費(補助金額)
■No.5 本川手箱きじの販路拡大（いの町） 4/1 交付決定	食鳥処理施設及び加工施設の改修による衛生管理の強化と生産体制の安定化	116,875 (47,334)

3 県民参画に向けた取り組み

- ・日高村行政連絡協議会（5月書面開催）に第4期計画改訂のポイントの資料提供
- ・（一社）仁淀ブルー観光協議会理事会での第4期計画改訂のポイントの説明（5/27）
- ・（一社）仁淀ブルー観光協議会通常社員総会での第4期計画の説明（6/24）

4 相談案件：1件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	9/1	特産品開発	特産品開発にチャレンジする方のための施設整備について

地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域地域で働き続けられる土壌づくりを目指していきます。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、18のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称	取り組み概要(目指す姿)	R2年度までの取組内容		
仁淀川	農業	No.8 日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト	日高トマト生産団地の拡大の取り組みを核として、中山間複合経営拠点の整備とも併せ、関連するJA出荷場、農産品加工施設、直販所、地元レストラン等が連携し、クラスターの形成を図る。	これまでの取組 (H28～R元)	トマト産地の確立のため、最新技術の研究及び導入、栽培技術の向上に向けた指導等、一貫した支援を行ってきた。また、トマトを活用した新たな加工品やオムライスメニューの開発に取り組むとともに、村の駅ひだかや、オムライス街道の参加店舗をはじめとする地元飲食店等による販売促進を行ってきた。	
		関連する地域AP		No.3 日高村まるとブランド化 No.21 「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化	R2年度の取組	栽培マニュアルの改訂を行い、マニュアルをもとにした現地指導の徹底により栽培技術の向上が図られた。また、トマトを活用した加工品の製造販売や宿泊施設の運営等を行う法人の経営力強化に向けた支援を実施するとともに、オムライス街道店舗による新メニューの開発（3件）や、新たな加工品の販売（1件）が進んだ。 【今後の方向性】 トマト生産力向上に向けた労働力の確保及び交流人口の拡大に向けた宿泊施設や「村の駅ひだか」の魅力向上
		関連する地域AP		No.9 いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト	いの町での生姜生産を核として、生姜の集出荷場整備を契機に、生姜生産農家、地元加工業者や直販所、道の駅、学校及び商工会等が連携し、生産から販売、人材育成までの好循環を生み出す。	これまでの取組 (H28～R元)
	農業	関連する地域AP	No.4 いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト	農家、地元加工業者や直販所、道の駅、学校及び商工会等が連携し、生産から販売、人材育成までの好循環を生み出す。	R2年度の取組	栽培講習会、GAP点検支援等の実施や、新規研修生の受入などを行った。また、芽生姜を使った加工品（甘酢漬）の販売を行うとともに、Kami祭等イベントでの生姜消費拡大に向けたPRを行った。 【今後の方向性】 小袋包装機等の導入による出荷体制の整備及び生姜の町「いの」PRに向けた取組及び情報発信の強化
	林業	No.10 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト	自伐型林業の取り組みを中心に、担い手の育成確保を含めた自伐型林業のビジネスモデルづくりのほか、町産材等を使ったモノづくりの人材育成や拠点整備、道の駅等の整備により町内の6次産業化を進める。	これまでの取組 (H28～R元)	自伐型林業の推進に向けて、地域おこし協力隊の積極採用や山林の集約化による施業地確保に取り組んだ。また、ものづくりの拠点となる「さかわ発明ラボ」を開設するとともに、森林資源フル活用センター（仮称）や道の駅の整備に向けた検討を行った。	
		関連する地域AP		No.9 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト No.20 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト	R2年度の取組	地域おこし協力隊を採用した（自伐型林業5名、ものづくり関連2名）。また、町内での自給率の高い産業を創出する森林資源フル活用センター（仮称）のR3年度整備に向けて関係者間で協議を行うとともに、加工した製品の販売拠点でもある道の駅の整備に向け、基本計画の策定を経て基本設計の策定に取り組んだ。 【今後の方向性】 森林資源フル活用センター（仮称）や道の駅の整備促進及び、町産材の活用促進に向けた加工事業者の現状把握と課題への支援
		関連する地域AP		No.11 仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト	(株)フードプランの県外量販店等との取引拡大を図る。あわせて、流域食材のブランド化による観光振興、加工・業務用野菜の産地形成を推進する。	これまでの取組 (H28～R元)
	食品加工	関連する地域AP	No.17 仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト		R2年度の取組	カット野菜事業は、取引先も拡大し順調に売上も伸ばしている。加工用の原料生産体制の推進に向けて、町内の農家（4戸）で栽培実証を行った。また、新たな高付加価値商品の開発を継続するとともに、「きじ出汁野菜鍋」の真空パックでのキット化が完成した。 【今後の方向性】 加工用ネギの生産者の掘り起こし及び、高付加価値商品（ドレッシング）の開発・販売、「きじ出汁野菜鍋」を活用した観光誘客の仕組みづくり
	水産業	No.12 宇佐・浦ノ内地区水産資源活用クラスタープロジェクト	うるめいわし、あさり、ブランド真鯛の水産資源を活用した加工業や、ホエールウォッシング、釣り筏などの遊漁、周辺の宿泊施設等が連携してクラスターの形成を図る。	これまでの取組 (H28～R元)	アサリ、ウルメイワシ等の生産量等の確保に向け資源保護活動等を実施した。また、地域食材等を活用した加工品及び弁当の開発、体験メニュー設定、磨上げ等を実施した。	
		関連する地域AP		No.10 宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化 No.11 宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化	R2年度の取組	新型コロナウイルスの影響により、積極的に観光客の受け入れを進めることが難しかったが、少人数ツアーのまちあるきガイドの受入を行い好評を得た。また、ガイドの研修会の実施やガイドマップの作成など、受入態勢の強化等を行った。 【今後の方向性】 須崎市と土佐市の観光協会による体験メニューの磨き上げ、教育旅行や団体旅行の誘致に向けた取り組みの推進
		関連する地域AP				